

前垣内遺跡発掘調査報告

2006（平成18）年3月

三重県埋蔵文化財センター

序

本書で報告する前垣内遺跡は、雲出川中流域右岸に所在します。雲出川沿いにはJR名松線や県道が通り、かつては雲出川を利用した水運が発達するなど、古くから交通路として開かれていました。

旧美杉村は平成18年1月1日に周辺10市町村と合併し、新「津市」として新たなスタートをきりました。この合併に際し、活力ある多様性を持った交流都市としての発展とともに、市民活力に支えられた豊かな文化と心を育む都市の実現を目指すことを基本理念のひとつに掲げています。今回の発掘調査でえられた成果が、当地域の歴史を探求するうえで活用されていくことを切望いたします。

調査にあたっては、地元の方々をはじめ、旧美杉村教育委員会、三重県県土整備部道路整備室、津地方県民局久居建設部などの関係諸機関から多大なご理解とご協力をいただきましたことに心より厚く感謝申し上げます。

平成18年3月

三重県埋蔵文化財センター
所長 吉水 康夫

例　　言

- 1 本書は、三重県津市美杉町竹原字持経地内に所在する前堀内遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、平成17年度（主）久居美杉線地方特定道路整備事業（持経工区）に伴い、緊急発掘調査を実施したものである。
- 3 調査は、平成17年度に行った。調査の体制は、以下のとおりである。
調査主体 三重県教育委員会
調査担当 三重県埋蔵文化財センター
調査研究Ⅰグループ 新名 強
- 4 調査にかかる費用は、三重県県土整備部が負担した。
- 5 本書の執筆および編集は、調査研究Ⅰグループの角正芳浩が行った。
- 6 遺構写真の撮影は新名が、遺物写真の撮影は、西村美幸・角正が行った。
- 7 掃図の方位は、すべて磁北で示している。
- 8 本書では、下記の遺構表示略記号を用いた。
S E : 井戸 S K : 土坑 P : ピット
- 9 本書で使用した土層および遺物の色調は、小山・竹原編『新版標準土色帖』(21版 1998)を使用した。
- 10 本書で報告した記録類および出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

前　　言	(1)
位置と環境	(3)
調査の成果	(4)

挿図目次

第1図 調査区位置図	(2)
第2図 周辺遺跡図	(3)
第3図 遺構実測図	(5)
第4図 出土遺物実測図	(6)

表目次

第1表 遺構一覧表	(6)
第2表 遺物観察表	(6)

写真図版目次

図版1	B地区北部分・B地区中央部分
図版2	B地区南部分・C地区全景
図版3	D地区全景・出土遺物

前　　言

1 調査に至る経過

前垣内遺跡は、平成6・7年度に皇學館大学考古学研究会が実施した詳細分布調査によって確認された遺跡である。この時の分布調査では中世から近世にかけての遺物のほか、縄文時代中期の深鉢片やサヌカイト片が採集されている。

調査の契機となった久居美杉線地方特定道路整備事業（持経工区）は、比較的狭隘な現状路線を拡幅する内容の工事である。平成11年度に県土整備部から事業照会があり、事業範囲内に所在する周知の遺跡である前垣内遺跡がこれに該当した。範囲確認調査は工事の進捗状況に合わせ平成14～16年度に実施した。その結果、今回調査対象となった範囲に中世から近世と考えられる柱穴を検出したため、400m²の範囲について本調査の対象とした。

この結果をうけて、県土整備部との協議により調査可能な範囲170m²について記録保存のための発掘調査を平成17年度に実施することとなった。

2 調査の経過

発掘調査の現地作業は、平成17年6月6日から同14日まで実施した。調査の結果、中世から近代までの土坑・ピットを検出し、古墳時代および中世から近代の陶器が出土した。

a 調査日誌（抄）

6月6日	現地調査開始 A地区調査・実測
7日	B地区北側部分調査・実測
8日	C地区調査・実測
9日	D地区調査・実測
10日	雨天のため、現場作業中止
13日	B地区中央部分調査・実測
14日	B地区南側部分調査・実測 現地作業終了

b 調査の方法

現地作業は調査地の横を通る県道久居美杉線の交通量が多いことと、沿線住民の日常生活への配慮か

ら、一日のうちに調査を実施し埋め戻しまで行える面積ごとに分割して実施した。

調査区の名称は、北からA地区とし最南部をD地区とした。

基準点は、調査区横を通る道路側溝を直線で結んだラインを任意の基準とした。

調査は、表土および盛土を遺構検出面直上までバックホウで除去し、包含層および遺構の掘削は人力で行った。実測図の作成は、調査区土層図を1/20、遺構平面図を1/20および1/40の縮尺で行った。

現地作業は、面積が狭小であることから県土整備部津地方県民局久居建設部からの労務提供により実施した。

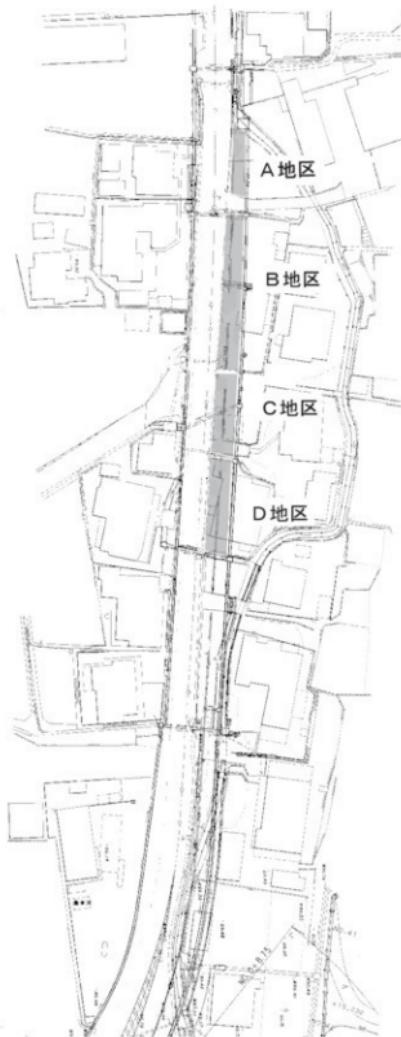
3 文化財保護法等にかかる諸通知

文化財保護法（以下、「法」）にかかる諸通知は、以下により行った。

- ・法に基づく三重県文化財保護条例第48条第1項
平成17年6月1日付け久建第638号県教育長あて県知事通知
- ・法第99条
平成17年6月7日付け教理第206号（県教育長あて三重県埋蔵文化財センター所長報告）
- ・遺失物法にかかる文化財発見・認定通知
平成17年9月20日付け教理第2-33号（県教育長あて三重県埋蔵文化財センター所長通知）
＊県教育長から久居警察署長あてに通知

【註】

- ①『美杉村の遺跡』皇學館大学考古学研究会 1995



0 50m

第1図 調査区位置図 (1 : 1,000)

位置と環境

1 地理的環境

三重県と奈良県との境、高見山地を源流とする雲出川およびその支流である八手保川の侵食によって形成された谷底平野や河岸段丘には、幾つかの集落が立地し、耕地も多く見られる。今回発掘調査を実施した前垣内遺跡は、雲出川右岸に形成された標高55 m前後の河岸段丘上に立地する。

2 歴史的環境

前垣内遺跡が所在する竹原地区を中心に記述する。竹原地区に所在する遺跡は、いずれも平成6・7年度に実施された詳細分布調査によって確認されたものである。この周辺の遺跡の分布状況を見ると、雲出川左岸の谷底平野より右岸の狭い河岸段丘に多いことがわかる。

縄文時代では前垣内遺跡で中期の深鉢やサヌカイト製剥片が採集されている他、雲出川と八手保の合流点付近の梅ヶ広遺跡、竹垣内B遺跡でもサヌカイト製石器や剥片が採集されている。

弥生時代については、現在のところ竹原地区では

全く知られていないが、八手保川の上流部にある君ヶ野遺跡では、中期の土器が出土している。

古墳時代になると上流域の八手保・下川地区で横穴式石室を有する古墳が造営されるが、当地区内においては確認されておらず、集落の存在も知られていない。

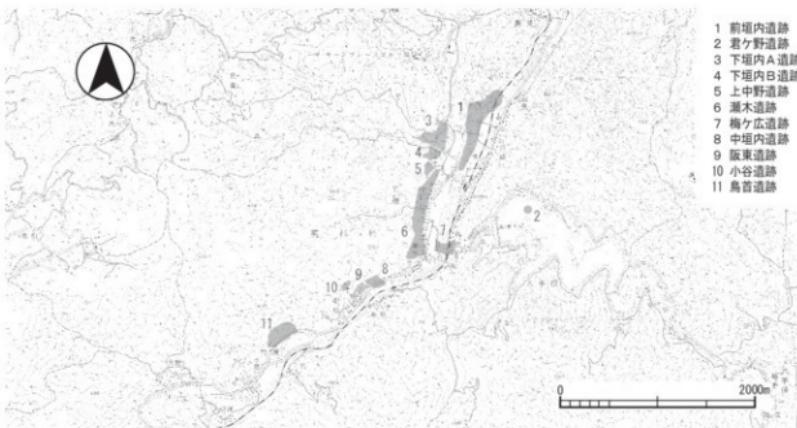
古代においては、前垣内遺跡、梅ヶ広遺跡、中垣内遺跡、阪東遺跡、鳥首遺跡で灰釉陶器が採集されている。

中世になると前述の遺跡以外にも、確認されている遺跡の数は増加するが、詳細はよく知られていない。

近世には竹原地区は、紀州藩領に属した。一志郡白山村を中心とした地域には、白山信仰の神社が多数あるが、竹原神社は菊理比咩命を祀った一志七白山社の一社として知られている。

【参考文献】

- 皇學館大學考古學研究会『美杉の遺跡』 1995
美杉村史編集委員会『美杉村史』上巻 1981



第2図 周辺遺跡図 (1 : 50,000)

調査の成果

1 基本的層序

今回の調査区では、現地表面下に戦後にわられた盛土があり、さらにその下に戦前の耕作土が存在する状況が確認された。基本的な層序は、上層から表土（耕作土・客土）、旧耕作土、盛土、旧耕作土、黒褐色シルト（遺物包含層）となる。遺構検出は基本的に黒褐色シルト層上面で行ったが、なかには遺構埋土との差がなく黒褐色シルト層下で確認した遺構もある。

2 検出した遺構

今回の調査では、江戸時代から近代にかけての井戸2基、土坑4基を確認した。また、中世まで遡る可能性のある柱穴を複数検出したが、これらについては出土遺物が伴わないので詳細な時期について明確にすることはできなかった。

S E 1 B地区で検出した。西側は調査区外へ延びるため全体の規模は確認できていないが、径は2m程度と推測される。深さは約65cmである。遺物は出土していない。

S E 4 B地区の南端で一部を検出した。深さは他の土坑と大差ないが形状から井戸と判断した。検出された規模は、約1.6m×約1.1m、深さは約55cmである。遺物は出土していない。

S K 2 B地区で検出した不定形土坑である。幅約1.3m前後で、深さは20～50cmである。検出した形状から溝状遺構の可能性もある。遺物は出土していない。

S K 3 B地区で検出した。南北約2.2mで、東西方向は調査区外へ延びる。深さは50cm程度である。SK2と同様に溝状遺構の可能性もあるが土坑とした。土器鍋（1）が出土した。

S K 5 D地区的北東隅で一部を検出した。深さは約25cmである。出土遺物はない。

S K 6 D地区で検出した。南北約2.4m、東西約1.6mでさらに西側は調査区外へと延びる。深さは約65cmである。施釉陶器（2）が出土した。

P 7 A地区で検出した。径40cm、深さ20cmである。

底に石が確認されており、根石の可能性もあり、掘立柱建物の柱穴の可能性が考えられる。遺物は出土していない。

A地区では、他に同規模のピットを2個検出しておき、P7と同様に柱穴の可能性がある。

擾乱土坑 C 地区で検出した。長辺約2.1m、短辺約0.8m、深さは40cm程度である。ガラス片とともに近世末頃から近代にかけての陶磁器類（3～9）が出土した。

3 出土遺物

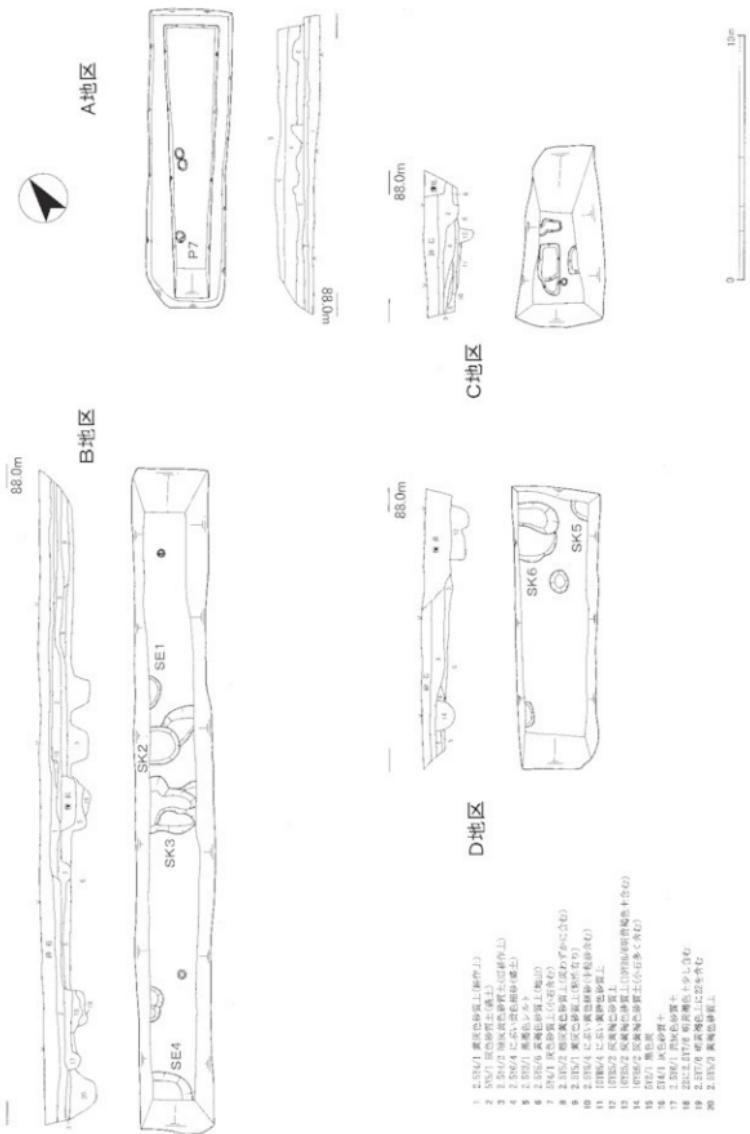
近世末頃から近世にかけての陶磁器類が出土したほか、包含層から古式土器高杯が出土した。

1は南伊勢系の土器鍋の口縁部、2は椀である。3は受皿で、内面のみ施釉される。4は陶器の皿、5は椀である。5は外面に赤絵が施される。6～8も染付皿であろうか。8は内面見込みおよび外面に文様を施す。9は肥前系の染付皿である。内面には草花文、見込みにコンニャク印判による五弁花が施される。古式土器高杯（10）脚部には三方向に穿孔が施される。

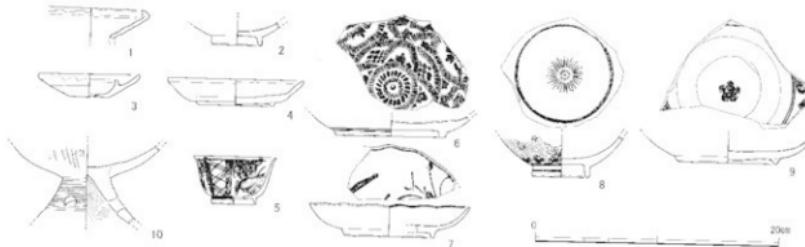
4まとめ

前項内遺跡では、これまでに縄文土器や石器、山茶椀等が採集され、縄文時代及び中世の遺跡として認識されてきたが、発掘調査は実施されたことがなかったため詳しいことは知られていないかった。今回の調査では、近世から近代にかけての遺物が中心に出土したもの、遺構に伴うものが少なく、遺跡の性格を明らかにするまでには至らなかった。

また、包含層からではあるものの古式土器が出土しており、これまで確認されていなかった当該時期の遺跡が周辺に存在する可能性を示唆している。



第3図 造構実測図 (1 : 100)



第4図 出土遺物実測図（1：4）

遺構番号	地区	規 模	深さ(cm)	出土遺物	時期	備 考
S E 1	B地区	径 2.0m 程度	65		近世～近代	
S K 2	B地区	1.3 m 前後	20 ~ 50		近世～近代	
S K 3	B地区	2.2m × 2.0 m 以上	50	土師器鍋	近世～近代	
S E 4	B地区	径 1.6m 以上	55		近世～近代	
S K 5	D地区	0.75m 以上	25		近世～近代	
S K 6	D地区	2.4m × 1.5m 以上	65	施釉陶器	近世～近代	
P it 7	A地区	径 0.4m	20	施釉陶器 磁器 ガラス片	中世～近世？	根石（？）あり
擾乱土坑	C地区	2.1m × 0.85m	40	施釉陶器 磁器 ガラス片	近代	

第1表 這構一覧表

No.	空器番号	出土遺物	層別	器種	口径 (cm)	底面 (cm)	底径 (cm)	調整・技法の特徴	船上	色・調	保存度	備 考
1	001-00	S K 2	土師器	鍋	—	—	—	3.077"→4.7"	黒	外: 7.016/2.45高 内: 10.08/3.25異様	口縁 1/12	
2	001-01	S K 6	磁器	碗	—	—	4.1	3.977"	黒	横: 10.7/2.85白 裏地: 3.9/2.85白	高台充實	高台削りだし
3	001-05	擾乱土坑	陶器	受皿	8.3	3.9	3.2	3.077"→4.972"	黒	横: 10.0/2.85白 裏地: 2.508/2.45D 7.016/3.25異様	口縁 9/12	
4	001-07	擾乱土坑	陶器	盆	11.1	2.1	6.2	3.077"→4.972"	黒	横: 10.0/3.0白 裏地: 2.556/2.45白	高台 6/12	底輪
5	002-02	擾乱土坑	磁器	碗	6.8	3.9	3.6	3.077"	黒	内: 白	口縁 3/12	赤絵 透明釉
6	002-04	擾乱土坑	磁器	盆	—	—	9.0	3.077"	黒	内: 白	高台 5/12	足付 7/7 透明釉
7	002-06	擾乱土坑	磁器	瓶	13.2	2.1	7.4		黒	横: 7.507/1.45高 裏地: 7.059/1.45白	高台 3/12	足付 7/7 内面墨花文 透明釉
8	002-03	擾乱土坑	磁器	碗	—	—	4.7	3.077"×3.077"	黒	横: 10.0/3.0白	高台充實	足付 7/7 透明釉
9	002-08	擾乱土坑	磁器	盆	—	—	8.2	3.077"	黒	裏地: 7.056/1.45D 内: 2.537/2.45異	高台 9/12	足付 7/7 足込コロカゲ印利人形花 内面墨花文 透明釉 高台削りだし 透明釉
10	001-03	汚泥層	土師器	高杯	—	—	—	ナダ	黒	横: 10.07/4.15 黄 内: 2.537/2.45異	脚部 4/12	

第2表 遺物観察表

写真図版

写真図版 1



B地区北部分（南から）



B地区中央部分（北から）



B地区南部分（北から）

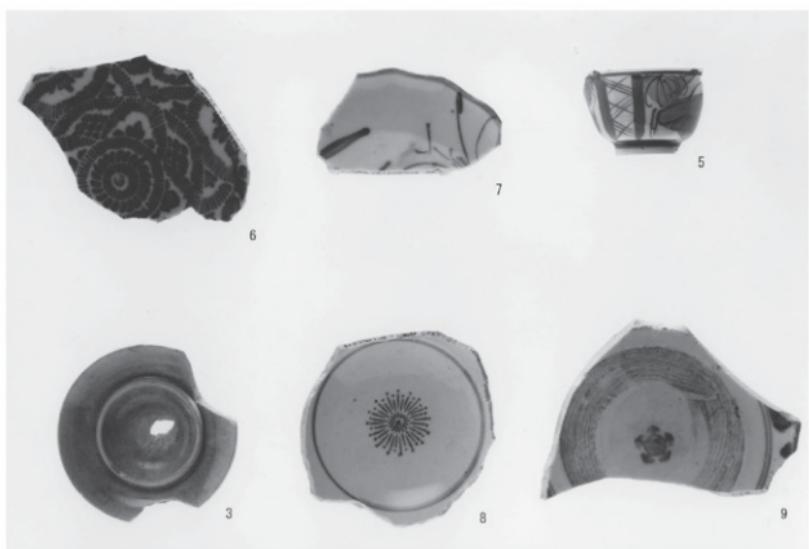


C地区全景（北から）

写真図版 3



D地区全景（南から）



出土遺物

報告書抄録

三重県埋蔵文化財調査報告 272

前垣内遺跡発掘調査報告

2006（平成18）年3月

編集 発行 三重県埋蔵文化財センター

印 刷 東海印刷株式会社